

Graduate School of Media and Governance

G U I D E B O O K

慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科



慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス
Keio University Shonan Fujisawa Campus (SFC)

技術と社会の融合をコラボレーションで実現する

1994年に開設された慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科は SFC (Shonan Fujisawa Campus) の独立大学院です。本研究科の修士課程は、21世紀の社会を担うプロフェッショナル＝高度な職業人を育成することをめざしています。多様な社会ニーズに応えるための専門知識を備えるとともに、実践的な問題発見・解決能力を身につけるための専門的なトレーニングの場を提供しています。後期博士課程においては、豊かな独創性や先端性のある学術的な探究を行い、国際的に活躍できる研究者・教育者・専門家の育成をめざしています。政策・メディア研究科は、従来の受動的な講義中心の大学院ではなく、具体的なプロジェクトへの参加を前提とした能動的なカリキュラムを中心に構成されている点がユニークです。

政策・メディア研究科の特徴を一言でいうなら、技術的なイノベーションと社会的なイノベーションの両方を融合することによって、実際の問題を解決する方法や仕組みを作ることを重視していることです。そのために、さまざまな専門領域の教員や学生が、活発なコラボレーションを行っています。

研究教育の対象領域は、「政策」「ガバナンス」「社会イノベーション」「環境」「ICT」「メディア」「身体スキル」「生命科学」などの分野における、8つの「プログラム」によってカバーされています。それぞれのプログラムは、より実践的な研究課題に対応する複数の「プロジェクト」によって構成されています。それらプロジェクトに共通しているのは、いずれも学問的な先端性が高く、実社会における問題との接点を持っている点です。ほとんどのプロジェクトは、従来の大学院のように特定の専門分野に限定した、「紙の上の」検討だけを行うのではなく、新しい問題に対して分野融合的な手法を用いて問題解決に挑戦しているのが特徴です。

政策・メディア研究科は、文部科学省21世紀COEプログラムにおける「次世代メディア・知的社会基盤」(2002～2006年度)と「日本・アジアにおける総合政策学先導拠点－ヒューマンセキュリティの基盤的研究を通して－」(2003～2007年度)をはじめ、グリーンICT、先端生命科学、社会イノベータや環境イノベータの研究教育拠点となるなど、内外で高く評価されています。2005年から始まった、修士課程における海外大学院とのダブルディグリー制度や後期博士課程における在職社会人を対象とした社会人コース、2006年に開設された、英語による講義・プロジェクト科目を提供する国際コース、さらに修士課程に開設されたプロフェッショナル育成コースなど、新しい仕組みを積極的に取り入れ、広く社会に、国際的に開かれた大学院として更なる発展をめざしています。

CONTENTS

| | |
|-----|---------------------------|
| P 3 | ●政策・メディア研究科 |
| P 4 | ●修士課程 |
| P 6 | ●後期博士課程 |
| P 7 | ●国際展開 |
| P 8 | ●プログラム紹介 |
| | グローバル・ガバナンスとリージョナル・ストラテジー |
| P 9 | ヒューマンセキュリティとコミュニケーション |
| P10 | 政策形成とソーシャルイノベーション |
| P11 | 認知・意味編成モデルと身体スキル |
| P12 | 環境デザイン・ガバナンス |
| P13 | エクス・デザイン |
| P14 | サイバーインフォマティクス |
| P15 | 先端生命科学 |
| P16 | ●科目一覧 |
| P17 | ●入学試験・学費・奨学制度・研究助成 |
| P18 | ●教員一覧 |

政策・メディア研究科

Graduate School of Media and Governance

修士課程・後期博士課程 政策・メディア専攻

入学定員

修士課程 200名

後期博士課程 50名

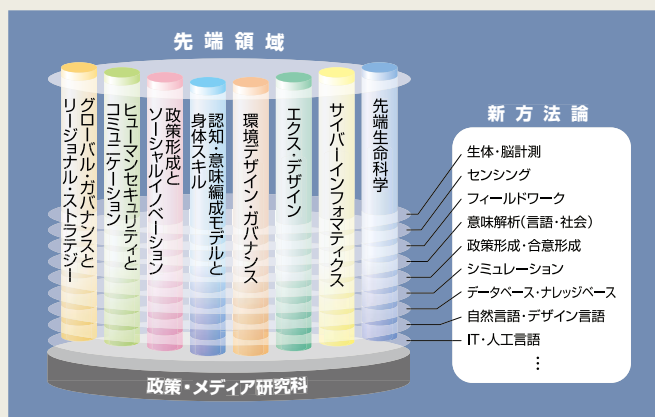
授与する学位

修士(政策・メディア)

博士(政策・メディア)

横断的問題解決を実現するための「プログラム」

いま、我々が直面している、複雑な要因が絡み合った地球規模の難問に対処するためには、個別の専門的学問に加えて、これらを横断的に捉えた新しい問題解決アプローチが必要になります。横断的問題解決を実現するためには、それぞれの専門領域をベースとしつつ、分野を超えたコラボレーションが必要になります。研究の専門領域の大枠となるのがプログラムで、2012年度には、8プログラムが設置されています。



公的資金研究プロジェクトにおける研究教育拠点

政策・メディア研究科は文部科学省による「21世紀COEプログラム」や「組織的な大学院教育推進プログラム(大学院GP)」等に採択された、複数のプログラムの研究拠点となってきたとともに、未来社会にむけたプロフェッショナルコースを創設した人材育成拠点として評価されてきています。文部科学省では、世界的な研究教育拠点の形成とともに国際的に活躍できる若手研究者の育成を支援しており、学生はこれらのプログラムに積極的に関与し、活躍の場を広げることが可能です。

博士課程教育リーディングプログラム【文部科学省】

「グローバル環境システムリーダープログラム」(2011～2017年度)

組織的な大学院教育推進プログラム(大学院GP)【文部科学省】

「社会イノベータ育成コースの創設」(2008～2010年度) <http://si.sfc.keio.ac.jp/>

「ICT先端融合研究コースの創設」(2008～2010年度) <http://www.sfc.keio.ac.jp/academics/graduate/ict.html>

科学技術戦略推進費補助金【文部科学省】

「未来社会創造型環境イノベータの育成」(アジア・アフリカ科学技術協力の戦略的推進プログラム 戦略的環境リーダー育成拠点形成)(2010～2014年度) <http://ei.sfc.keio.ac.jp/>

「グリーン社会ICTライフインフラ」(気候変動に対応した新たな社会の創出に向けた社会システムの改革プログラム)(2010～2014年度) <http://www.green-lifeinfra.com/>

科学技術振興調整費【文部科学省】

「コ・モビリティ社会の創成」(先端融合領域イノベーション創出拠点の形成プログラム)(2007～2010年度) <http://co-mobility.com/>

先導的ITスペシャリスト育成推進プログラム【文部科学省】

「先端ITスペシャリスト育成プログラム」(2006～2009年度) http://www.sfc.keio.ac.jp/research_projects/it_specialist.html

21世紀COEプログラム【文部科学省】

「次世代メディア・知的社会基盤」(2002～2006年度) <http://www.coe21.sfc.keio.ac.jp/>

「日本・アジアにおける総合政策学先導拠点-ヒューマンセキュリティの基盤的研究を通して-」(2003～2007年度) <http://coe21-policy.sfc.keio.ac.jp/>

「システム生物学による生命機能の理解と制御」(2002～2006年度)

グローバルCOEプログラム【文部科学省】

「In vivo ヒト代謝システム生物学拠点」(2007～2011年度) <http://www.gcoe-metabo.keio.ac.jp/>

「論理と感性の先端的教育研究拠点形成」(2007～2011年度) <http://www.carls.keio.ac.jp/>

修士課程

カリキュラムの特徴

修士課程においては、プログラムごとに必修科目や「サティフィケート（修了証）※注」授与要件が定められています。講義による単位取得に徹したプログラムや、作品の制作とレビューなどの研究活動が中心となるプログラム、修士論文を必修としないプログラムなど、各プログラムの特徴が反映されています。

プログラムが大枠の研究領域であるのに対して、政策・メディア研究科の学生にとって日常的な研究活動の場となるのは「プロジェクト」です。従来の座学を中心とした受動的な講義だけでなく、プロジェクトへの参加を主体とした能動的な実践的研究・学習が政策・メディア研究科のカリキュラムの中心です。プロジェクトは、通常、数名の教員が担当しています。これにより、異なる視点から幅広く学生へのアドバイスが可能となります。それら教員が実施している先端的なプロジェクトに参加したり、教員のアドバイスの下で学生独自のテーマを設定して研究を実施することで、研究の計画、実施、評価などを実際に体験し、職業人・研究者となるためのトレーニングを受けます。

プロジェクトとは、「プロジェクト科目」として設置されている履修科目です。単一プログラム内で構成されているものもありますし、複数のプログラムが互いに連携しているものもあります。また、修士課程修了に必要な全単位の約1/2をプロジェクト科目の履修で充足することが可能です。プロジェクト科目は、政策・メディア研究科全体で約50科目設置されており、先端領域におけるさまざまな研究テーマに柔軟に対応できます。

また政策・メディア研究科では、個人の研究テーマに関する国内外での実地調査・研究活動を行う「フィールドワーク」や、研究内容の社会的な実践を試みる上で有用な「インターンシップ」などを推奨しています。これらの活動は、事前に申請を行い、学内審査を通過すれば正式な単位として認められます。

※注 サティフィケート（修了証）…修士課程において各所属コースまたはプログラムに設定されている所定の要件を満たすことにより、修士学位に加えて政策・メディア研究科委員長名で各コースまたはプログラム修了の「サティフィケート（修了証）」が授与されます。これにより、学位取得者の専門性をより明確に証明することができます。

科目構成

■ 研究支援科目（概念構築科目、先端研究科目）

「概念構築」はプログラムの特性や考え方など主要概念を理解する科目で、「先端研究」はプログラムに関連する先端的な研究を紹介する科目です。これらの科目を学ぶことで、実際にプロジェクト科目で進める研究の全体像をつかむことになります。

■ プログラム科目

各プログラムを構成する専門科目と、プログラムに関連する主要な課題へのアプローチ方法を示すプログラム支援科目です。

■ プロジェクト科目

研究のフロンティアであるテーマについて、問題発見、分析、結果のとりまとめを体系的に学ぶ科目です。もっとも重視されるコラボレーションの場であり、研究の計画、実施、評価を実践することにより、「自律・分散・協調」の体得を目的とします。

■ 特設科目

それぞれの科目を理解する上で必要な関連科目、演習的科目、萌芽的研究のためのフロンティア科目、寄附講座等の特別科目です。

※科目の詳細については、P16の「科目一覧」を参照してください。

■ 修士論文

修士課程での研究成果を発表するとともに、修士学位を取得する上で重要な論文です。ただし、修士論文を執筆せずに修士学位を取得する非修士論文オプションを選択することも可能です。

育成する人材像

社会のニーズに応える専門知識と実践的な問題発見・解決能力を身につけたプロフェッショナルの養成を主目的としています。特に、カリキュラムの骨格を占めるプロジェクトの手法を活かし、組織経営と企画・立案・政策、都市と環境の設計、情報技術、知識処理技術、バイオ技術、デジタルコンテンツ、マルチメディア技術等にかかわる企業、地方自治体、官庁、国際組織等で活躍することが期待されます。また、既存の学問領域を超える新しい領域を開拓する研究者の育成もめざしています。

プロフェッショナル育成コース

「プロフェッショナル育成コース」は、修士課程の学生に対して、修了後に高度なプロフェッショナルとして活躍する一定のキャリア領域を想定したカリキュラムを提供し、コース毎に「サティフィケート(修了証)^{※注}」を発行するものです。

これらのコースは、政策・メディア研究科の修士課程へ入学する際に、学生が希望するコースの履修を申請し、一定の条件がクリアされた場合に履修が認められるものです。履修が認められるための条件はそれぞれのコースによって異なりますので、詳しくは各コースウェブサイトの説明をご覧ください。

現在、以下の4つのコースが設置されています。

先端 IT スペシャリストコース (2012年度より新規募集を停止)

先端ネットワーク、大規模分散システムや新IT応用システムを構築でき、実践的なITスキルを備えたスペシャリストを養成します。

http://www.sfc.keio.ac.jp/academics/graduate/it_specialist.html

環境イノベーターコース

人文科学と自然科学の枠を超えた国際化対応の分野融合プログラムで、未来創造型環境リーダーを育成します。

http://www.sfc.keio.ac.jp/academics/graduate/environmental_innovator.html

社会イノベーターコース

行政・ビジネス・非営利組織で必要とされる、事業センスと公益センスを兼ね備えた人材を育成します。

http://www.sfc.keio.ac.jp/academics/graduate/social_innovator.html

ICT先端融合研究コース

ICT分野における体系的知識と科学的手法を体得し、多様性・流動性を持つ問題発見解決型のリーダーを育成します。

<http://www.sfc.keio.ac.jp/academics/graduate/ict.html>

※注 サティフィケート(修了証)・・・修士課程において各所属コースまたはプログラムに設定されている所定の要件を満たすことにより、修士学位に加えて政策・メディア研究科委員長名で各コースまたはプログラム修了の「サティフィケート」が授与されます。これにより、学位取得者の専門性をより明瞭に証明することができます。

TOPIC

学位授与数(過去5年間)

| | 2006年度 | 2007年度 | 2008年度 | 2009年度 | 2010年度 |
|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 修士課程 | 155 | 135 | 156 | 142 | 164 |
| 後期博士課程 | 28 | 33 | 29 | 31 | 30 |

教職課程

教職課程履修登録をし、所定の単位を修得することによって、中学校および高等学校の教員資格を取得することができます。教職課程で取得できる教員免許状の種類および教科は以下のとおりです。

| 種類 | 免許教科 |
|-------------|-------|
| 中学校教諭専修免許状 | 社会 |
| 高等学校教諭専修免許状 | 公民/情報 |

後期博士課程

カリキュラムの特徴

後期博士課程における基本的なカリキュラムは、研究指導と論文指導から成り立っています。学生は自らの研究計画に従い、政策・メディア研究科の教員やその他の研究者で構成された「アドバイザーグループ」により、研究の進め方および博士論文の作成について、指導や助言を受けます。コースワークは修士課程において終了していることが前提です。

後期博士課程での研究・教育は、実際にはプロジェクトの中で行われます。修士課程の場合は、プロジェクトに参加することで職業人としての訓練を受けますが、後期博士課程の学生は、自らプロジェクトを立案、企画、推進することで、「新しい概念構築」「専門的な研究活動」「新しい方法論」を駆使した独創的な成果を政策・メディアの融合領域上で展開することが期待されます。したがって博士学位取得においては、外国語の運用能力や授業シラバスの作成能力、博士論文のプロポーザルの提出・認定など、いくつもの条件を満たさなくてはなりません(後期博士課程社会人コースについては、社会経験を前提として、一部条件が免除となります)。

こうした条件をクリアし博士候補の資格を得られれば、既存のプロジェクトとコラボレーションを図りながら、国際的な研究コミュニティへの参加や修士課程のプロジェクト科目との連動など、より活躍の場が広がります。さらに、SFC 研究所との交流によって、受託研究やコンソーシアムの形で企業・自治体との連携を図ることも可能です。多くの学生が政策・メディア研究科の後期博士課程で最先端の学問を学びながら、その成果を社会に還元しています。

育成する人材像

高度な専門性、的確な判断力、豊かな独創性を併せ持つ優れた研究者、教育者、および専門家の育成を目的としています。特に、新しい情報パラダイムを基礎として、ガバナンス、政策、社会イノベーションを探究する研究者、持続可能な地球環境や都市の創造に取り組む建築家、新しい情報環境、知識処理、メディアの創造などに携わる専門家、従来の枠にとらわれない教育の実現に意欲を持つ教育者の輩出をめざしています。

後期博士課程社会人コース

修士課程を修了(見込み)した方で、すでに企業・官庁・研究教育機関等で5年以上の業績・経験を積み、問題意識を明確に持った社会人を対象とし、在職したまま博士学位の取得をめざすものです(大学学部卒業者で、事前に出願資格の審査を受けて修士課程修了者と同等以上の学力があると認められた場合、出願できる場合があります)。社会人コースでは、入学試験出願書類および博士学位取得条件の一部が免除となります。

国際展開

国外の大学院とのダブルディグリー制度(修士課程)

2005年度より、修士課程に国外の大学院とのダブルディグリー(共同学位)制度を導入しました。この制度を利用することで、最短2年間で政策・メディア研究科の修士学位と提携先大学院の修士学位を取得することが可能です。

提携先大学院(2011年11月現在)

- 延世大学** ・Department of Sociology, Area Studies and Political Science, Yonsei University Graduate School
 ・Graduate School of International Studies, Yonsei University
- 復旦大学** ・School of International Relations and Public Affairs, Fudan University
 ・English-instructed Master of Arts degree program in Chinese Politics and Diplomacy, Fudan University
- ハレ大学** ・Master Program in Intercultural German Studies / Media and Governance, Martin Luther University Halle-Wittenberg

国際コース

2006年度より政策・メディア研究科に「国際コース」を設置しました。このコースは英語をリングア・フランカ(共用語)として使用し、英語のみで課程を修了することが可能になっています。国際的に活躍できる人材の育成を目的とし、国内外の学生がともに切磋琢磨しながら学位の取得をめざします。主としてアジア諸国からの留学生を対象としています。アジア以外からの留学生や日本人学生も国際コース科目を履修することができます。

また、この枠組みを使って、以下のようなアジア各国の人材開発プログラムが実施されており、選抜・派遣されてきた多数の留学生は、修了後、母国の発展を先導する人材として活躍することが期待されています。

<http://www.sfc.keio.ac.jp/academics/graduate/iadp.html>

留学生の出身国(2011年11月現在)

イギリス、イスラエル、インドネシア、エジプト、オーストラリア、カナダ、韓国、グルジア、シリア、シンガポール、タイ、台湾、中国、チュニジア、フィリピン、フランス、米国、ベトナム、ポルトガル、ミャンマー、モンゴル、ヨルダン、リトアニア、ルーマニア

ODA事業による留学生受入

政策・メディア研究科(修士課程・後期博士課程)では、以下の日本政府ODA事業による留学生も学んでいます。

インドネシアリンケージ・プログラム(修士課程)

インドネシア政府が円借款を利用して行う高等人材開発事業であり、インドネシアの中央・地方公務員の育成を目的としています。

1年目はインドネシアの大学院修士課程に在学し、2年目は政策・メディア研究科の修士課程で学ぶことにより、修了時に両大学院から2つの修士号を取得する仕組みになっています。

留学生支援無償事業(JDS: Japanese Grant Aid for Human Resource Development Scholarship)(修士課程)

日本政府の無償資金協力による留学生受入事業であり、社会・経済開発計画の立案・実施に関わり、当該国の21世紀を担う指導者となることが期待される優秀な若手行政官、実務家、研究者等を対象としています。彼らは日本への留学を通じて専門知識の習得、研究、人的ネットワークの構築を行い、自国が直面している社会・経済開発上の課題を実践的に解決すべく活躍することが期待されています。

政策・メディア研究科はこの事業に2007年度より参加しています。近年では、2010年度秋学期に、フィリピンから2名、ミャンマーから1名を、また2011年度秋学期にはミャンマーから2名を修士課程に受け入れています。

フィールドワーク/インターンシップ



政策・メディア研究科では、個人の研究テーマに関する国内外での実地調査や研究活動を行う「フィールドワーク」や、研究内容の社会的な実践を試みる上でも有用な「インターンシップ」などを推奨しています。大学院での研究活動において、より実践的で専門的な知の形を構築するためには、実際に現地や現場に赴き、データ収集や実地調査、技術の検証・実験などを行うことも必要です。学内での研究活動と並行して、その対象を社会や海外に広げ、よりグローバルな視点を加えることで、研究活動はより深厚なものとなるでしょう。これらの活動は、「フィールドワーク関連科目(※)」として、一定の基準を満たすものに限り単位申請をすることができます。毎年40～50名の学生がこの科目を申請し、国内外の研究施設や大学諸機関にて実地研究を行っています。

(※)「フィールドワークA/B/C/D」「インターンシップA/B」「グローバル・パートナーズ・ネットワーク」「グローバル・イシュー・プラクティス」の科目を指す。

グローバル・ガバナンスとリージョナル・ストラテジー Global Governance and Regional Strategy

グローバル・ガバナンスとリージョナル・ストラテジー(GR)

グローバル化の進行に伴って、世界各地で多種多様な問題が浮上ってきています。こうした問題に取り組むために、地域の実情に即した分析に基づいたリージョナルなガバナンスを念頭に、実現可能な戦略性「ストラテジー」を提案していくことが必要だと考えます。

本プログラムでは、こうした地域へのまなざしを基礎にすえつつ、関連する諸学問領域の統合的な把握と実践的な活用を通じて、人類社会共通の平和と繁栄を実現するグローバルなガバナンスの構築をめざしています。

実際の研究活動においては、日本・中国・朝鮮半島を含む東アジア、東南アジア、ラテンアメリカ、北アメリカ、ヨーロッパ、イスラーム圏を中心としたフィールドワークが重視されると同時に、政治・経済・外交・貿易・安全保障・国際関係・エネルギー・金融・法などのほか、言語・文化・情報・社会・環境・宇宙・宗教に至る幅広い専門領域から総合的なアプローチが行われます。

プログラム内外の活発な研究交流が大学院生の研究に有効に活用されている点は特徴的であり、多様な地域および専門領域間の比較研究・相関研究の場としても最適です。また、延世大学(ソウル)、復旦大学(上海)とのダブルディグリー制度や、両大学の院生たちとの遠隔による共同クラスの実施をはじめとして、海外の研究教育機関との密接な連携によるさまざまなプロジェクトが進められています。さらに国際学術会議を定期的開催しており、履修登録者には発表の機会も用意されています。

キャリア・資格等

就職先、進路としては、政府系・民間系の研究機関、国内外の公務員、メディア関連教育関係の諸機関が挙げられます。具体的には、国際協力銀行(JBIC)・開発金融研究所、国際協力機構(JICA)、国際金融情報センター(JCIF)、民間コンサルティング・ファーム、国際NGO、国家公務員I種、外務公務員(在外公館専門調査員を含む)、国際公務員、国際ジャーナリストなどに実績があります。教育研究専門職志望者には後期博士課程への道も開かれています。



Interview

チェアパーソン
奥田敦 教授



グローバル化を理由に人間が人間に対して退場を命じることは許されない

加速度的に進行するグローバル化にガバナンスの醸成が追いつかない。中でも深刻なのが、グローバルなレベルでのバランスと公正の欠如です。富、権力、安全、情報、知識、人口、平和など、ローカルなレベルでも、またグローバルなレベルでもその偏りは激しくなる一方です。持たざる者の淘汰にしか見えない事態が公然と進行しています。グローバル化下においては、国家の力が相対的に弱くなったという指摘がありますが、たとえばイラク情勢において顕著に見られたように、国家の力がグローバル化と結びついたとき、無辜の市民に甚大な犠牲を強いる点でそれは十分すぎる脅威です。テロに対する戦いとテロという機軸では、一向にグローバルなレベルでのバランスも公正も取り戻せません。我々は、一部の人々や社会のみにとっての幸福や繁栄を超えたところでまさにグローバルなバランスと公正を考えなければならないのです。

生命38億年の時の流れの中で「人類」の比率は、破滅に向かうがごとく歪に肥大しているという指摘があります。そうした状況の中で人類が自らに対して自然淘汰を創出すること、つまり人間が人間に人間社会からの退場を命じることは許されません。とはいえ、そうした歪みもたらす問題はあとを絶たず、またそれに抗する動きもローカルなレベルで顕現することが少なくありません。GRプログラムでは、日本、中国、朝鮮半島、東南アジア、アメリカ、ラテン・アメリカ、欧州、中東欧、イスラーム圏およびそれらの相互の関係において、グローバリズムの閉塞や反グローバリズムとの対立を乗り越えるための問題発見と解決策の戦略的探究をプロジェクトレベルで重視していきます。それらの研究成果を総合的に踏まえながら、GRプログラムが、グローバルなレベルでのよりよいガバナンスの構築へ向けた総合的なコラボレーションの場になればと考えます。

Member List

メンバーリスト

下線は研究科委員、括弧内はサブメンバー、斜字体はプロジェクト参加教員(他学部・他研究所所属教員、非常勤教員、特任教員等)

阿川 尚之、井下 理、奥田 敦、加茂 具樹、草野 厚、小林 良樹、清水 唯一朗、神保 謙、田島 英一、土屋 大洋、廣瀬 陽子、山本 純一、渡邊 頼純、島田 美和、フォスター、ジム、李 洪千、(青木 節子)、香川 敏幸、小嶋 祐輔、鄭 浩淵

Projects

関連プロジェクト

- グローバル・ガバナンスとリージョナル・ガバナンス
- 国際開発協力
- グローバリズム・ナショナリズム・ローカリズム
- イスラームとグローバル・ガバナンス研究プロジェクト
- WTO体制と東アジアにおける経済統合
- インターヒストリー：地域・理論・政策
- International Policy Analysis (国際政策分析)
- 現代社会文化論プロジェクト
- 評価(アセスメント)プロジェクト
- インターリアリティ

Human Security and Communications

ヒューマンセキュリティとコミュニケーション(HC)

ヒューマンセキュリティとは、「脅威からの自由、欠乏からの自由」を内容とする人間の生活を指します。本プログラムでは、「共生」および異文化交流のダイナミックな文脈で、このためのさまざまな政策課題を取り上げ、同時に、ヒューマンセキュリティを促進・保全しようとする個人やコミュニティのあり方を検討します。多様な国家体制、発展段階の異なる経済社会、多様な言語・文化的背景、歴史的経験といった従来の枠を越えて展開される問題解決の営為を、個別研究に共通する課題として位置づけています。

このプログラムは、1) 開発政策、福祉政策、言語政策といったヒューマンセキュリティに関連する政策課題群と、表現、コミュニケーション、教育といった人間行為の規範的な領域に関わる問題群とが複雑に交錯する点に注目します。続いて、2) 問題解決の営為が国家など公的な行政単位によって独占されるのではなく、国境を越える集団から多様な地域集団、世帯から個人の営為までを含めた人間の創造的な活動であることに注目します。こうした視野を前提に、3) 人口減少という稀有の経験を目前にして新たな政策的イノベーションが要請される日本、膨大な人口を抱え、開発のさまざまな負荷を担いつつも活気あふれる東アジア・太平洋地域、域内統合の深化を外延的な拡大と連動させつつあるEUなどを具体的なフィールドとして取り上げていきます。

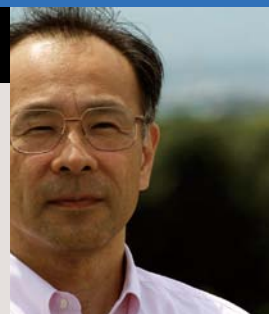
キャリア・資格等

就職先としては、国際機関、開発コンサルティング、地方自治体、民間シンクタンク、一般企業、ジャーナリズム、活字・視聴覚メディア、教育界などの業種が挙げられます。また、開発社会学、国際経済学、国際組織論、地域研究論、ヒューマンセキュリティ論、外国語教育、言語文化、コミュニケーションなどの研究者を育成します。



Interview

チェアパーソン
平高史也 教授



ヒューマンセキュリティの遠近法を考える

学生には、フィールドに出て行くときに何に注目するかを考え、フィールド内で問題を作ることから取り組んでほしいと思っています。たとえば地域の日本語学習支援を例に話すと、国や地方自治体で大きな予算を使って問題を解決していくというスケールで考えてしまいがちです。国の施策ももちろん重要なのですが、そういう国全体や大きな地域という発想だけで問題を見ようとすると、ほんとうに必要な支援とは何なのかという根本的な課題を見落としてしまうことになりかねません。実際に日本語支援が行われている現場に入って見て、日本語を学んでいる外国人や彼らを支援する人たちが何を必要としているのか、彼らをとりまくネットワークがどう機能しているのか、それを東ねる人には何が求められるのかといった事柄を把握しないと、当事者に寄り添った支援を行うことはできません。普通、人は統計には現れない方法、記録としては残されないような方法で自分たちの生活をとらえています。たとえば、人と人の関係や人と地域の関係などは、記録にはなりにくいけれども、生活を基盤的なところで支えています。こういうところにも注目しながら、人間の生活とそれを支えるコミュニティにおきている問題や、そうした問題を解決していく方法について考えていくのが、HCプログラムの方針です。

Member List

メンバーリスト 下線は研究科委員、括弧内はサブメンバー、斜字体はプロジェクト参加教員(他学部・他研究科所属教員、非常勤教員、特任教員等)

青木 節子、梅垣 理郎、小熊 英二、國枝 孝弘、古石 篤子、ティースマイヤ、リン、野村 亨、氷上 正、平高 史也、堀 茂樹、藁谷 郁美、白井 宏美、(井下 理、加茂 具樹、巖 網林、神保 謙、田島 英一、安村 通晃、渡邊 頼純)、バンバン、ルディアント、ボンジー、アラーナ、松家 仁之

Projects

関連プロジェクト

- 開発ネットワーク(JANP1)
- Sustainable Development(JANP2)
- 現代社会文化論プロジェクト
- ITと学習環境プロジェクト
- 言語教育デザインプロジェクト
- 近代社会研究
- 評価(アセスメント)プロジェクト

政策形成とソーシャルイノベーション(PS)

イノベーションとは、社会・経済システムや技術など、さまざまな要素の新しい結合によって、それまでになかった価値が生まれ、変革がもたらされることです。ICTの急速な発展によって、世界中のさまざまな要素がつながり、ますます多様化、複雑化する現代。これからは、ローカルなソリューションとともにグローバルな視野が、また、経済的・技術的な要素とあわせて社会的・文化的な視点が求められます。そして、このような状況において、社会・経済・政治の問題を分析、理解し、解決していくためには、それにふさわしい新しいパースペクティブやアプローチが不可欠なのです。

本プログラムでは、効果的な制度設計や政策形成、政府・国際機関・自治体・企業・NPOなどの組織マネジメントやガバナンス、キャリア形成などについて探究します。社会学、政治学、行政学、経済学、経営学、法学、文化人類学、心理学、ゲーム理論、金融論、組織論、コミュニティ論、キャリア開発論、マーケティング論、起業論、メディア論などの関連する幅広い諸学問を領域横断的に洞察しつつ、実践的な問題解決の新しい枠組みを構築し、社会に役立つ知見を創造することを目指しています。

キャリア・資格等

国際機関、開発コンサルティング、国家公務員、地方自治体、民間シンクタンク、ベンチャーキャピタル、投資顧問、金融業、ジャーナリズム、教育界、人事・人材開発・キャリアサポートビジネス、キャリアアドバイザーなど、社会的課題・個人的課題解決への新しい発想と、ITシステムを含んだ新しい資源運用能力を備えた人材、ベンチャーを起業する人材を輩出します。

Interview

チェアパーソン
飯盛義徳 准教授

「知行合一」を体現する 先導者を育成

PSプログラムでは、社会や組織の問題に果敢に挑み、さまざまな知を援用した上で解決につながる実践知を創造し、社会を先導していくプロフェッショナルを育成することに主眼を置いています。

昨今、さまざまな要因や制度が複雑に絡み合い、企業にも行政にも対処が難しい問題が随処に立ちはだかっています。一例として、地域づくりの分野を考えてみましょう。地域では、高齢化の進展や人口流出などによって、産業、教育、介護など、さまざまな領域で綻びが露わになっています。従来、地域においては、講や結などの相互扶助によって問題を解決する手立てがありました。しかし、地縁をベースとしたこのような仕組みが機能不全に陥りつつあり、自治体の財政状況も厳しさを増して、今後どのようにして浮揚を図るのか、その方策については試行錯誤の段階にあるとよいでしょう。最近になって、例えば、マネジメントの観点からは、多様な主体間のつながりを形成し、協働、創発をもたらすことが地域づくりの「銀の弾丸(silver bullet)」になると期待されるようになりました。では、そのためにはどうすればよいのでしょうか。

本プログラムでは、単なる分析だけにとどまることなく、常にそこまで踏み込んで問い続け、あるべきものを探求する姿勢が大切だと考えています。そして、さまざまな知見を駆使し、徹底的なフィールドワーク、時にはアクションリサーチなどの手法を用いて、真摯に問題に立ち向かい、多角的な視点から解決につながる具体策を見いだすことを志しています。

私たち自身もイノベーターとして、研究・教育・プロジェクト実践の相乗効果によって、皆さんと一緒にSFCから世界を元気にする流れを築き上げたいと心から願っています。



Member List

メンバーリスト

下線は研究科委員、括弧内はサブメンバー、斜字体はプロジェクト参加教員(他学部・他研究科所属教員、非常勤教員、特任教員等)

会田 一雄、秋山 美紀、浅野 史郎、飯盛 義徳、印南 一路、上山 信一、小澤 太郎、片岡 正昭、金子 郁容、桑原 武夫、國領 二郎、小暮 厚之、後藤 純一、駒井 正晶、神成 淳司、新保 史生、菅谷 実、曾根 泰教、竹中 平蔵、玉村 雅敏、花田 光世、フリードマン、デビッド、村林 裕、森川 富昭、柳町 功、渡辺 光博、渡辺 靖、井口 知榮、東海林 祐子、西山 朗、(井庭 崇、大江 守之、古谷 知之、李 洪千)、井上 英之、高田 義久、夏野 剛、堀 真奈美、宮川 祥子、安井 秀行

Projects

関連プロジェクト

- ファイナンスと不動産プロジェクト
- ネットワークコミュニティ
- インターネットとマス・メディア
- プラットフォームとビジネス
- サイバービジネス・マーケティング
- パブリックポリシー(合意形成)
- 医療福祉政策・経営
- インターリアリティ
- 文化政策プロジェクト
- 少子高齢化と外国人労働者
- 評価(アセスメント)プロジェクト
- 生活実践知
- 環境とビジネスのイノベーション
- アーバン・リノベーション研究
- 社会イノベーター・プラットフォーム
- バーチャル・システム・リサーチ



Cognition, Sense-Making & Biophysical Skills

認知・意味編成モデルと身体スキル(CB)

本プログラムでは、認知的・意味的な諸モデルと身体スキルモデルの構築、集団や社会における意味編成メカニズムの解析を取り上げ、それらの研究開発を行うと同時に人材の育成を目的とします。具体的には、スポーツなどにおけるスキルの解明、言語獲得過程の認知科学的アプローチ、自然言語や音声・画像イメージなどのマルチメディア情報の意味モデル、意味編成における記憶メカニズムやコミュニケーション、ネットワークを介したデータ収集・解析技法、人間とコンピュータの自然なインタラクション、人間の精神発達に関する研究、そして、空間の知覚および空間の認知の研究、などを行います。

キャリア・資格等

人間の知性や技巧、スポーツなどを科学的な視点で解析できる人材、および文章、画像、音楽などのマルチメディアに対して意味を付与して、コンピュータによって自由に操作できるような人材、ウェブやIT技術を駆使して人々の意味世界に踏み込んだ社会調査・分析ができる人材の輩出を狙います。本プログラムの修了者は、企業マーケティング部門・企画部門・システム開発部門、政策シンクタンク、スポーツコーディネーター、外国語教育部門、起業家、インタフェースデザイナー、福祉支援などの仕事で活躍することが期待されます。また、第一線の研究者、教員への道も開かれています。



Interview

チェアパーソン
濱田庸子 教授



© マザール

身体と言語から、世界の基本構成を 解読し、新しいつながりを創造する

人は自分の身体と社会の言葉をメディアとして、自分のまわりの世界との間に多様なインタラクションを展開しています。明らかに自分の意図をもって世界にコミットする場合も、そうではなく、なんら意識することもなく身体が軽やかに動作する場合も、自分と世界との間にインタラクションが存在するかぎり、CBプログラムの研究テーマとして大切にされます。もちろん、身体の社会性も、言葉の自分性も重要で、それによって、世界は新たに生成されていきます。このようなダイナミックでインタラクティブな世界について、どのようなスキルを使い、どのように認知し、どのように意味解釈すればいいのかを研究するのが、このプログラムの個性です。

たとえばバスケットのフリースローでも野球の投球動作でも、うまくなるためには腕をどのように使えばいいのか、と思ったら、身体スキルのメカニズムの解明が必要です。また乳幼児が母親とのコミュニケーションから言葉を発する際の不思議に、知的好奇心がゆさぶられたり、あるいはブログやSNSの無数のコミュニケーションから意味世界の多様性に興味をわいたりしたら、自然言語の認知や意味編成のメカニズムの研究が必要でしょう。さらにヴァーチャルとリアルの世界のインタラクションや異文化間のインタラクション、意識と非意識のインタラクションなどさまざまなインタラクションに興味を持ったら、それらをよく観察して、新しいデザインの創生につなげていくでしょう。またその基礎となるところの発達研究など人間の心理面の研究も必要です。

CBプログラムは、身体と言語から、こうした世界の基本構成を解読し、人と環境とのインタラクションを中心に、インターネット、スポーツ、言語、認知、メンタルヘルスなど、社会に貢献する多くのテーマに挑戦しています。

Member List

メンバーリスト 下線は研究科委員、括弧内はサブメンバー、斜字体はプロジェクト参加教員(他学部・他研究所所属教員、非常勤教員、特任教員等)

石崎 俊、井庭 崇、今井 むつみ、仰木 裕嗣、加藤 貴昭、河添 健、熊坂 賢次、佐々木 三男、霜崎 實、諏訪 正樹、田中 茂範、中浜 優子、西岡 啓二、長谷部 葉子、濱田 庸子、福田 和也、森 さち子、安村 通晃、渡辺 利夫、佐藤 芳明、永野 智久、(小川 克彦、小熊 英二、加藤 文俊、清木 康、桑原 武夫、武藤 佳恭、増井 俊之、村林 裕)、小池 英樹、佐藤 雅彦、チグネル、マーク、樋口 文人、広瀬 通孝

Projects

関連プロジェクト

- インタラクションデザインプロジェクト(IDP)
- シンボルとメディアの認知・システム
- スポーツサイエンスとコグニティブエルゴノミクス
- ネットワークスタイル
- サイコスペース
- 認知・行為・メディアと言語・言語教育
- 生活実践知
- サイバービジネス・マーケティング
- インターリアリティ
- ノーベル・コンピューティング

環境デザイン・ガバナンス(EG)

本プログラムは、日常の生活空間から地球規模のシステムまでを含めた環境を対象に、様々な社会問題の解決を目的にした計画とデザイン、マネジメントとビジネス、政策と制度を総合的に探求するプロフェッショナルな人材の育成を目指しています。地域の歴史やコミュニティ等の固有性を尊重しつつ、地球規模の環境的な視点を理解し、ローカルからグローバルまで幅広い視野で問題を捉えます。そして先端的なICTを駆使して環境をモニタリングシミュレーションやモデリング技法を使って持続可能な環境の実現のためのデザインを模索し実現可能な施策を検討します。そのために4つのサブプログラムを設けます。

1. 地球環境: 地球環境問題を中心とした環境問題とエネルギー問題の分析と影響評価を行い、低炭素社会へ移行するための問題解決の方策を研究する。このために政策的、経済的、社会科学的分析手法と、理学、工学的技術開発を融合します。

2. ジオインフォマティクス: GIS(Geographic Information System)、RS(リモートセンシング)を介した情報蓄積、表現、分析などの技法、さらにモデリング手法、シミュレーション、合意形成手法、計画技術などを通じて、経済効果、環境効果、社会効果が兼ね備えた発展計画とビジネスプランの企画立案と政策形成を図ります。

3. 都市: 都市と地域環境を対象に、意思決定のプロセスに有効に働く計画技法や事業実施の方法を探究するとともに、公共団体や地域社会、企業あるいは国際機関など、実際の事業実施のステークホルダーとともに都市・地域再生の手法を研究します。

4. 環境デザイン: 建築・都市計画・ランドスケープを横断し、今日の環境と空間の問題に応えるためのリサーチ、プランニング、デザイン、社会システムを探索します。住環境デザイン、建築遺産、資源マネジメント、空間知能化、仮想デザイン等の方法論を深めます。

キャリア・資格等

景観・建築・都市設計エキスパートや行政、環境、都市開発、不動産、運輸、流通分野におけるプランナーや研究者としての活躍が期待されます。

建築・環境デザイン分野の所定の単位を取得することにより、一級建築士の国家試験の受験資格が得られます。また、政策・メディア研究科「低炭素社会デザインコース」、「社会イノベータコース」の所定の単位を取得することにより、「低炭素社会デザイン」、「社会イノベータ」のサティフィケートが得られます。

Interview

チェアパーソン
池田靖史 教授



環境創造のイノベータを SFC から

「環境」とは様々な領域の境界を越えて問題を捉えようとする意識ということもできると思います。小さな住居であっても、それは地域の街並に影響し、実はずっと離れた所からエネルギーの供給を受け、いずれ地球全体の気候変動にまで境界を越えて連続する関係を持っています。私たち人類の幸福は地球全体の資源の共有、都市と自然のバランス、社会の成熟化と地域の経済の活性化の関係などさまざまな構造的な社会問題と深く関わっています。これらの問題の解決は工業革命以来、国際的な貿易を前提にした大量生産とエネルギー消費を元に豊かな生活を求め続けてきた人間社会にとって、かつてなかった挑戦です。EGプログラムは20世紀の生活と社会のモデルを見直し、地球全体の自然環境システムと調和できる持続可能な未来を創造する高い志を持つ学生を求めます。

EGプログラムは、グローバルな環境意識とローカルな空間の具体的なものづくりやデザインの間をつなぐ思考を大切にします。従来の学問体系では、別々な専攻として分解して研究されることが多かったこのような問題を、情報技術のイノベーションを通じて総合的に捉えることを最も重要な目標にしています。

EGプログラムはこれまでの専門分野の枠には収まらない学生一人ひとりの才能を伸ばし、豊かな発想を育み、新しい空間のデザインや環境のビジネスを生むスキルと精神を創成するプログラムです。

Member List

メンバーリスト

下線は研究科委員、括弧内はサブメンバー、斜字体はプロジェクト参加教員(他学部・他研究科所属教員、非常勤教員、特任教員等)

池田 靖史、一ノ瀬 友博、大江 守之、大前 学、巖 網林、小林 光、小林 博人、清水 浩、中島 直人、古谷 知之、丹治 三則、行木 美弥、松川 昌平、松原 弘典、(片岡 正昭)、茅 陽一、武山 政直、浜中 裕徳、渡邊 正孝

Projects

関連プロジェクト

- 環境デザインの手法開発とその支援システムの構築
- 環境とビジネスのイノベーション
- アーバン・リノベーション研究
- 社会イノベータ・プラットフォーム
- 環境と開発のジオインフォマティクス
- グローバル環境システム
- アーバンモデリングデザイン



エクス・デザイン(XD)

21世紀に入り、科学技術の高度化と、文化的基盤の成熟化は、めまぐるしい速度で進んでいます。また同時に、社会全体に広くコンピュータが普及したことで、人々の思考や価値観、知覚や認識の方法、ものづくりやシステム開発の進め方自体も、大きく変容し、20世紀型の古い尺度ややり方が通用しなくなるような場面が急速に増えつつあります。

こうした疾走する時代感覚と極限化する生活環境・社会状況において、未来への想いを具体化・具現化することのできる、「デザイン」の素養を持った人材が広く求められています。本プログラムは、「クリエイティブ・マインド」を研究の基本的な推進力・原動力として持続しつつ、

- 開発力と表現力
- 技法(テクニック)と技術(テクノロジー)
- 科学的理性と芸術的感性
- 論理(ロジック)と倫理(エシック)
- 作り手側の価値観と使い手側の価値観

などの分断された各要素を再び包摂・統合し、具現化することのできる、エキスパートの育成を目的とします。

キャリア・資格等

本プログラムでは、情報技術を基盤としながら自らの五感と手を使って新しい価値を創造する人材を育成します。具体的には、プロダクトデザイナー、アートディレクター、デザインエンジニア、デザインディレクター、クリエイティブリサーチャー、メディアアーティスト等です。これまでの業種としては、国内外のデザイン業界、通信業界、電気機器メーカー、通信機器メーカー、ゲーム業界、CG業界、放送業界、映画業界、広告業界、WEB業界、携帯コンテンツ業界、商社、コンサルティング業界、出版業界など多岐にわたっています。また、ベンチャー企業を起業することも推奨しています。

Interview

チェアパーソン
山中俊治 教授



未知なるデザイン領域で、 創造の喜びを

デザインは、一般的には自分の感性を表現し、きれいなものを手に入れることだと思われていますが、それはデザインの一つの側面にしか過ぎません。一つの人工物の中に機能と美しさをバランスよく同居させ、人々を感動させ、長く愛せるものを作るためには、科学の領域や美術の枠組みにとらわれず、人と人工物の関係を統合的に設計することが必要です。何よりも、創造の喜びを知っていることも必要でしょう。XDプログラムは人々のために何かを統合的にデザインする場であると同時に、作る喜びを共有するための場でもあります。XDのデザインマインドは5つのXから構成されています。未知なるデザイン領域(X)の「開拓」に積極的にチャレンジすること。極限的な(eXtreme)状況における人工物のデザイン。実験的な(eXperimental)プロトタイプを奨励し、具体的な社会実験(eXperiment)から評価やフィードバックを得て、常に時代に先駆けした活動を行うこと。真の自己実現や自己表現(eXpression)の喜びを経験・共有すること、などです。

具体的に扱う研究領域は多岐にわたります。先端テクノロジーを駆使して、人々に新しい体験を与えるデザイン・エンジニアリングとメディアアート、極限的な状況や価値調整が想定される医療分野や特殊環境におけるデザイン、様々なマイノリティのためのデザイン、都市空間を再生させる情報技術や、地域を活性化させるフィールドワークとともに生まれるデザイン、新しいリテラシーとしてのパーソナルファブリケーション、人工物と人との関係を見直すためのプロトタイピングとユーザービリティ・テスト、これまでにない音楽や映像を作り出す技法と環境。そしてそれらを実社会に還元し、社会化するためのマーケティングとブランディングなど。カリキュラムの特徴は、スタジオ制とレビュー科目です。学生はスタジオ内における研究活動に専念し、そこで新しいものを創造します。各スタジオはそれぞれ独自の「現場」を持つ教員が指揮し、社会との具体的な関わりの中で研究を洗練させていくことが可能です。レビュー科目は本プログラム担当教員と所属学生全員に対してプレゼンテーションを行い、議論を行う交流の場です。幅広い視点で、ものづくりの喜び、創造の喜びを共有することを目指します。

Member List

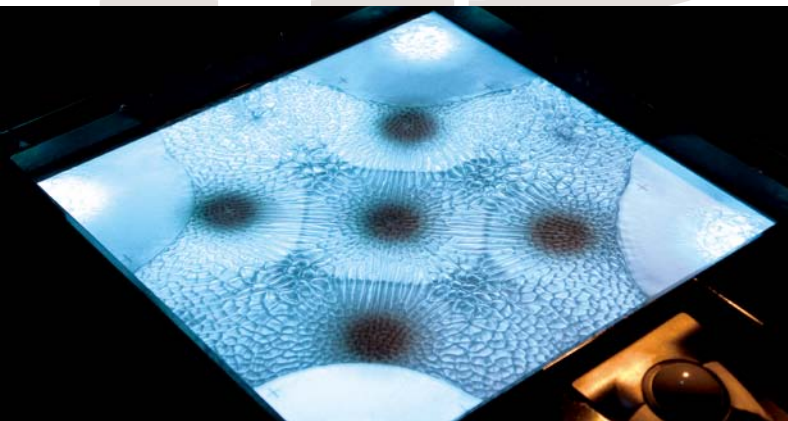
メンバーリスト 下線は研究科委員、括弧内はサブメンバー、斜字体はプロジェクト参加教員(他学部・他研究科所属教員、非常勤教員、特任教員等)

岩竹 徹、加藤 文俊、田中 浩也、中西 泰人、山中 俊治、脇田 玲、寛 康明、坂井 直樹、藤田 修平、水野 大二郎、(小川 克彦、諏訪 正樹、安村 通晃)、千代倉 弘明

Projects

関連プロジェクト

- サイバーサウンド・プロジェクト
- リアル・デジタル・マテリアル
- デザインエンジニアリング
- ソーシャル・ファブリケーション
- 現代社会文化論プロジェクト
- ネットワークスタイル
- 生活実践知
- プレイス&モバイルメディア



サイバーインフォマティクス

Cyber Informatics

サイバーインフォマティクス(CI)

本プログラムでは、来るべきユビキタスネットワーク社会をデザインし、その基盤を与えるプラットフォームを構築できる人材、すなわち「ITの新たな潮流を創り出す人材」を育成します。技術プロフェッショナル(即戦力・実務型)、技術イノベータ(研究者型)、ベンチャアントレプレナ(起業家型)、サービスデザイナー(CIO型、デザイナー型)といった、ITスペシャリストの育成です。従来のコンピュータサイエンスの範囲にとどまらない「Novel Computing & Communication Systems」を指向し、インターネットシステム(Internet Systems & Applications)、ユビキタス情報システム(Ubiquitous Computing & Networking)、基盤ソフトウェア(System Software)、知識情報システム(Knowledge & Information Systems)、情報セキュリティ(Information Security)、インタラクションデザイン(Interaction Design)、ビジネス情報システム(Enterprise Computing)をCIコア分野として位置付け、それぞれの分野ごとに体系化された科目群を用意し、それらの履修と、プロジェクト科目でのより先端的・実践的な研究活動を通して、ITを実践し実世界における問題を解決していく能力を身につけます。

キャリア・資格等

本プログラムでは、情報社会の基盤を支える情報インフラや知的で使いやすい情報システムを設計・構築可能なITスペシャリストの育成をめざします。サイバー社会の設計・構築を担う人材、さらに、情報教育の教員、企業の教育担当者、ベンチャビジネス起業家といった人材を輩出します。また、さらに深く、問題の発見、解決、知識化を促進する第一線の研究者への道も開けています。

Interview

チェアパーソン
萩野達也 教授



ユビキタスネットワーク社会をデザインする

20世紀に発展したコンピュータやインターネットなどのデジタルテクノロジーは、21世紀には人と社会を支える社会基盤としての役割を担っています。CIプログラムでは、知識や情報を数字で表現したり、蓄えたり、伝えたり、隠したり、復元したりするなどのデジタル情報操作やネットワーク構築に必要な技術や方法の研究、ユビキタスと呼ばれる情報のテクノロジーを背景に空間全体を新しく創造する研究、人とテクノロジーを結びつけるアプリケーションやインターフェイスの研究、そして、それらが結びつくときに考えなければならない新しい社会デザインに関する研究など、幅広い視点で豊かで、安全で、楽しい未来の社会を創造する活動に取り組みます。CIプログラムに関連するプロフェッショナル育成コースとして「先端ITスペシャリストコース」と「ICT先端融合研究コース」がありますので、是非合わせてサティフィケートを取得することを勧めます。

Member List

メンバーリスト 下線は研究科委員、括弧内はサブメンバー、斜字体はプロジェクト参加教員(他学部・他研究科所属教員、非常勤教員、特任教員等)

植原 啓介、小川 克彦、清木 康、楠本 博之、高汐 一紀、武田 圭史、武藤 佳恭、徳田 英幸、中村 修、萩野 達也、服部 隆志、バンミーター、ロドニー、増井 俊之、村井 純、倉林 修一、中澤 仁、三次 仁、(石崎 俊、河添 健、中西 泰人、安村 通晃)、相磯 貞和、大川 恵子、杉浦 一徳

Projects

関連プロジェクト

- モービル広域ネットワーク
- ユビキタスコンピューティング&ネットワークプロジェクト
- ノーベル・コンピューティング
- プレイス&モバイルメディア
- ITシステムプロジェクト
- バーチャル・システム・リサーチ
- リアル・デジタル・マテリアル
- インタラクションデザインプロジェクト(IDP)
- シンボルとメディアの認知・システム



Systems Biology

先端生命科学(BI)

本プログラムは、湘南藤沢キャンパス(バイオインフォマティクス)と鶴岡タウンキャンパス先端生命科学研究所(生物実験:システム生物学)の両方にまたがり、「医・薬・農・理・工」を融合させた世界でも希少な大学院プログラムです。湘南藤沢キャンパスでは最先端のネットワーク環境を駆使した「バイオシミュレーション」や「ゲノム解析プログラミング」などのコンピュータ実習科目が、また鶴岡タウンキャンパスでは「メタボローム解析実習」「プロテオーム解析実習」「ゲノム工学実習」「代謝システム工学実習」など、質量分析計、DNA シークエンサー、バイオリアクターなど最新鋭の実験・測定機器を用いた実験実習科目が用意されています(写真左下・右下)。

本プログラムの学生はこれらの研究施設を利用して先端研究を行い、多くの卒業生が第一線の生命学者として世界中で活躍しています。藤島皓さん(2007年修士・2009年博士)は熱水中など極限環境に生息する微生物の研究で博士号を取得し、現在アメリカ航空宇宙局(NASA)で宇宙生物学の研究をしています。谷内江望さん(2007修・2009博)はプロテオームとバイオインフォマティクスを融合した研究で博士号を取得後、ハーバード大学医学部に博士研究員として就職しました。福田陽子さん(2001修・2004博)はバクテリアのゲノム研究で博士号を取得し、東京大学医学部附属病院神経内科に研究員として就職しました。高橋恒一さん(2000修・2003博)は細胞シミュレーションの研究で博士号取得後、米国Molecular Sciences Instituteに留学し、その後33歳の若さで理化学研究所のチームリーダーに抜擢されました。駒井宏美さん(2006修)は修士号を取得後、司法試験に合格し、バイオ専門の弁護士として活躍しています。

学生たちは慶應義塾ならではの自由な雰囲気の中で研究に打ち込み、思いの夢を着実に実現しています。

キャリア・資格等

卒業生には上記以外にも、慶應義塾大学や東京大学の教員になった人、くも系の人工合成でベンチャー企業を立ち上げ「バイオビジネスコンペ JAPAN」(2009)で最優秀賞を獲得した人、食品会社や製薬会社、コンサルティング会社に就職した人、など様々な分野で活躍しています。

Interview

チェアパーソン
富田勝 教授



生命をシステムとして理解し、 医療・食品・環境に貢献する

ヒトは60兆の細胞、約4万種のタンパク質、約3万の遺伝子、約1万種の代謝物からなるとても複雑なシステムです。今まではひとつひとつの「部品」の働きを解明することに重点が置かれていましたが、これからはどのように全体が「システム」として振る舞うかを解明する新しい生命科学が主流となります。

2001年に鶴岡タウンキャンパスに設立された先端生命科学研究所では、生体内の代謝物質全体を、一斉にかつ短時間で測定する「メタボローム解析」という究極の成分分析技術を開発しました。2002年に特許を取得したこの技術は国内外から注目を集め、様々な賞を受賞しています。この技術を用いて、がん細胞の振る舞いを解析したり、がんや精神疾患、肝炎などの病気を血液分析で早期診断したり、農作物の健康機能性成分を網羅的に分析したり、極限環境に生息する微生物を網羅的に分析したり、大気中の二酸化炭素から軽油を生産してくれる藻の代謝を分析するなど、様々な分野に応用しています。またITを駆使して様々な生物のゲノム配列を比較したり、細胞の代謝をシミュレーションしたりする、バイオインフォマティクスの分野では世界的パイオニアです。詳しくは <http://www.iab.keio.ac.jp/> をご覧ください。

「生命科学を通して人類に貢献したい」「バイオ燃料を実用化して環境問題を解決したい」。そんな高い志をもつ君の夢実現はSFCから始まります。

Member List

メンバーリスト 下線は研究科委員、斜字体はプロジェクト参加教員(他学部・他研究科所属教員、非常勤教員、特任教員等)

板谷 光泰、金井 昭夫、曾我 朋義、富田 勝、内藤 泰宏、佐野ひとみ、荒川 和晴、石濱 泰、斎藤 業摘、斎藤 輪太郎、セルバラジュ、クマール、柘植 謙爾、土屋 政輝、中東 憲治、西岡 孝明、マレー、ダグラス、ロバール、マルタン

Projects

関連プロジェクト

- 先端生命科学
 - ・オイル生産藻プロジェクト(写真右上)
 - ・環境微生物プロジェクト
 - ・食品メタボローム
 - ・がんのシステムバイオロジー
 - ・疾病診断マーカー
 - ・ゲノムインフォマティクス
 - ・細胞シミュレーション(写真左上)



| プログラム科目 | | | 研究支援科目 | ファイナンスと不動産プロジェクト |
|-------------------------------------|----------------------------|----------------------------------------------|--------------------------------------------|--------------------------------------|
| グローバル・ガバナンス研究(基礎) | 環境デザイン・フィールド・ワークショップ | 環境測定演習 | 概念構築 (GR) | ネットワークコミュニティ |
| グローバル・ガバナンス研究 (グローバル・ガバナンスの視点) | 環境空間論 建築環境制御論 | 地域創造演習 インターンシップA | 概念構築 (フィールドワーク論) 概念構築 (ヒューマンセキュリティ) | インターネットとマス・メディア プラットフォームとビジネス |
| グローバル・ガバナンス研究 (グローバルイゼーションと地域変容) | 建築技術論 建築構成論 | インターンシップB 応用環境デザイン (グリーン・アーキテクチャ・デザイン) | 概念構築 (アカデミック・コミュニケーション手法) | サイバービジネス・マーケティング パブリックポリシー(合意形成) |
| グローバル・イシュー・プラクティス | 構造のデザイン | | 概念構築(リサーチデザイン) | 医療福祉政策・経営 |
| グローバル・パートナーズ・ ネットワーキング | 都市デザイン論 エネルギー政策分析 | 応用環境デザイン(総合) 持続的開発のための アジア・太平洋イニシアティブ | 概念構築(戦略と制度設計) 概念構築(CB) | インターリアリティ 文化政策プロジェクト |
| 地域戦略研究(東アジア) | ランドスケープデザイン | | 概念構築(EG1) | 少子高齢化と外国人労働者 |
| 地域戦略研究(北東アジア) | 環境の力学 | 個益公益のデザイン 1 | 概念構築(EG2) | インタラクションデザインプロジェクト (IDP) |
| 地域戦略研究(中華圏) | 都市空間の構成 | 個益公益のデザイン 2 | 概念構築(CI) | |
| 地域戦略研究(イスラム圏) | 空間モデリング特論 | 国際関係論 | 概念構築(BI) | シンボルとメディアの認知・システム |
| 地域戦略研究(米州) | エンタテインメントセオリー | 開発とローカリズム | 先端研究 (GR) | スポーツサイエンスと コグニティブエルゴノミクス |
| 地域戦略研究(欧州) | デザインセオリー | リスクと保険 | 先端研究(社会理論と開発) | |
| ワールドエコノミー | デジタルサウンドセオリー | 時系列解析法 | 先端研究(語用論) | ネットワークスタイル |
| グローバルエコノメトリクス | エンタテインメントコンテンツプロデュース論 | 公共選択論 | 先端研究(パブリックポリシー) | サイコスペース |
| 東南アジア現代史 | インターネットの進化と可能性 | ベンチャー経営論 | 先端研究(ケースメソッド) | 認知・行為・メディアと言語・言語教育 |
| ポリシーマネジメント (開発とヒューマンセキュリティ) | システムソフトウェア ソフトウェア開発方法論 | 社会保障政策(医療・介護) 社会保障政策(年金・労働・福祉) | 先端研究(CB) 先端研究(EG1) | 生活実践知 環境デザインの手法開発と その支援システムの構築 |
| 言語教育デザイン論 | マルチメディア知識ベース構築論 | ゲーム理論 | 先端研究(EG2) | |
| ITと学習環境 | 情報セキュリティ論 | ネットワーク産業論 | 先端研究ワークショップ(XD1) | 環境とビジネスのイノベーション |
| トランスカルチャー論 | ユビキタスコンピューティングシステム論 | ランドスケープエコロジー | 先端研究ワークショップ(XD2) | アーバン・リノベーション研究 |
| ファイナンス理論 | オブジェクト指向分析 | 地域計画実践論 | 先端研究ワークショップ(XD3) | 社会イノベータ・プラットフォーム |
| 応用ファイナンス | 知識発見法 | 地球環境技術論 | 先端研究ワークショップ(XD4) | 環境と開発のジオインフォーマティクス |
| リスクの統計分析 | 自律分散協調システム論 | 地球環境法 | 先端研究(CI) | グローバル環境システム |
| 不動産市場分析 | 先端分子細胞生物学 | 地球システム | 先端研究(BI) | アーバンリモデリングデザイン |
| 組織評価論 | ゲノム工学実習 | エネルギー環境論 | | サイバーサウンド・プロジェクト |
| 日本のビジネス | バイオインフォーマティクスアルゴリズム | ポピュレーションダイナミクス | 特設科目 | リアル・デジタル・マテリアル |
| ネットワークと情報経済 | ゲノムデザイン学 | 地球環境政策 | グローバル・ガバナンス研究 (応用研究) | デザインエンジニアリング ソーシャル・ファブリケーション |
| 経営戦略特論 | ゲノム医科学 | 代謝システム工学実習 | プロジェクトマネジメント論 | モービル広域ネットワーク |
| ポリシーマネジメント (政策形成とソーシャルイノベーション) | 数理生物学 生命科学英語 | メタボローム解析実習 | エネルギーシステム論 エネルギー環境政策分析 | ユビキタスコンピューティング& ネットワーキングプロジェクト |
| ガバナンス論 | 生命分子ネットワーク | デザイン戦略(アーキテクチャ) | インターネット時代のセキュリティ管理 | ノーベル・コンピューティング |
| ソーシャルビジネスと評価 | フィールドワークA | デザイン戦略(アンビエントメディア) | フューチャーインターネットテクノロジー: アーキテクチャと構成要素 | プレイス&モバイルメディア ITシステムプロジェクト |
| 意思決定モデル | フィールドワークB | デザイン戦略(ビジュアライゼーション) | | バーチャル・システム・リサーチ |
| 地方政府のガバナンス | フィールドワークC | デザイン戦略(インタラクション) | 新世代ネットワーク特論 | ICT先端融合クロス連携プロジェクト |
| ITビジネスとグローバル経営 | フィールドワークD | 社会起業論 | 環境デザイン特別演習 1 環境デザイン特別演習 2 若年者のキャリア教育 | 先端生命科学 |
| ITビジネスと経営組織の革新 | 運動生理学・バイオメカ | | | |
| 行政組織の経営 | 高齢社会デザイン論 | | | |
| 地域情報化論 | 老年学 | | | |
| ソーシャルファイナンス | 環境フィールドワーク | | | |
| キャリア開発演習 | ソーシャルビジネスの商品開発と プロモーション | | | |
| テクノロジーマネジメント論 | | | プロジェクト科目 | |
| HCI設計論 | 社会起業とイノベーション | | グローバルイズム・ガバナンスと リージョナル・ガバナンス | |
| ソシオコンテンツ分析特論 | 社会イノベーションとデザイン | | 国際開発協力 | |
| ソシオセマンティクス特論 | ファミリービジネス論 | | グローバルイズム・ナショナルイズム・ ローカリズム | |
| 認知・脳科学論 | 低炭素社会設計論 | | イスラムとグローバル・ガバナンス 研究プロジェクト | |
| 認知意味論 | 環境技術システム論 | | WTO体制と東アジアにおける 経済統合 | |
| スポーツ・スキルサイエンス論 | 環境ビジネスデザイン論 | | インターヒストリー:地域・理論・政策 | |
| 心理情報解析特論 | 低炭素社会デザイン演習1 | | International Policy Analysis (国際政策分析) | |
| 人間工学論 | 低炭素社会デザイン演習2 | | 開発ネットワーク(JANP1) | |
| 宇宙法 | 調査研究設計論 | | Sustainable Developme(JANP2) | |
| 建設マネジメント論 | 設計情報論 | | 現代社会文化論プロジェクト | |
| 地域環境論 | 次世代WEBプラットフォーム論 | | ITと学習環境プロジェクト | |
| 都市政策 | 自然言語処理システム論 | | 言語教育デザインプロジェクト | |
| デジタルアース論 | ヒューマンインタフェース | | 近代社会研究 | |
| 安全環境論 | メディア情報学 | | 評価(アセスメント)プロジェクト | |
| 応用環境デザイン (建築とランドスケープのデザイン) | 実践コンピュータシステム 計算機アーキテクチャ | | | |
| 応用環境デザイン(都市環境のデザイン) | 分散並列計算論 | | | |
| 環境の変遷 | 知的所有権と著作権 | | | |

入学試験

| | 修士課程 | 後期博士課程 |
|---------------------|---------------------------------|----------------------|
| 出願時期 | I期:5月下旬(予定) II期:10月上旬(予定) | |
| 入学時期 | 4月(前年度I期・II期) 9月(前年度II期、入学年度I期) | |
| 募集定員 ※ ¹ | 200名 | 50名 |
| 出願方式 | 国内出願、海外出願 | 国内出願、海外出願、 社会人コース |
| 選考方法 ※ ² | 1次:書類審査・小論文試験 2次:面接 | 書類審査・面接 |

※1 各年度の4月入学者、9月入学者、各出願方式の合計 ※2 海外出願の場合は書類審査のみ

詳細については、必ず <http://www.sfc.keio.ac.jp/admissions/graduate/index.html> を参照してください。

入学試験要項はweb上で公開します。

学費

2012年4月入学者の、入学金を含む初年度納入金(参考)

| | | |
|--------|------------|---------------------------------------------------------|
| 修士課程 | 1,570,600円 | 納入方法には、全納および分納(春・秋)の2種類があります。 |
| 後期博士課程 | 1,190,600円 | 学費についてはスライド制を採用しており、在学中はその適用により毎年定められる学費を納入することになっています。 |

奨学制度

勉学・研究の意欲を持ち、成績・人物ともに優秀な学生で、なおかつ経済的な理由により就学が困難な学生を対象に、「日本学生支援機構奨学金」「慶應義塾大学大学院奨学金」などの奨学制度を設けています。慶應義塾大学の奨学金の概要については、<http://www.gakujikeio.ac.jp/life/shogaku/prosstud.html> をご確認ください。いずれも募集は4月以降になりますので、詳細につきましては、入学後、「奨学金の揭示案内」および「奨学金の案内冊子(事務室学生生活担当窓口にて配布)」をご覧ください。なお、奨学金は選考の後、採用が決定されますのであらかじめご了承ください。

政策・メディア研究科独自の奨学金

| | |
|------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ヤングリーダー奨学金 | 特に優秀な修士課程・後期博士課程の入学者に対する初年度100万円を給付する奨学金の制度です。入学試験出願時に申請した方の中から選考し、入試合格発表時に受給者を発表します。 |
| GAOスカラシップ | 修士課程入学予定者の中から非常に優秀な学生に対し、在学料相当額(101万円)を政策・メディア研究科が負担する制度です。在学中の成績や継続面接などの審査により、最長で修士課程修了までの2年間(最短修業年限内)受給することが可能です。入学試験出願者の中から選考し、入試合格発表時に受給者を発表します。 |

研究助成

政策・メディア研究科の教育・研究の振興を目的としている「森泰吉郎記念研究振興基金」や、後期博士課程在籍者の優れた個人研究または共同研究に必要な研究経費を補助する「博士課程学生研究支援プログラム」等、慶應義塾内には各種研究助成があります。上記2つの助成金についての詳細は、湘南藤沢研究支援センター(電話 0466-49-3436)までお問い合わせください。

政策・メディア研究科

| 職位 | 氏名 | 専門分野 |
|-----------|---------------|----------------------------------------------------------------------------|
| 教 授 | ■ 池田 靖史 | 建築・都市設計 |
| 特別招聘准教授** | 井上 英之 | 社会起業、ソーシャルビジネス経営、コミュニティ投資 |
| 准 教 授 | ■ 仰木 裕嗣 | スポーツ工学、スポーツバイオメカニクス、生体計測、無線計測 |
| 准 教 授 | ■ 大前 学 | 機械工学(機械力学・制御、自動車工学) |
| 教 授 | ■ 金子 郁容 | ネットワーク論、コミュニティ論、ソーシャルイノベーション |
| 客員教授** | 茅 陽一 | エネルギー・環境システム工学 |
| 特別招聘教授** | 神田 駿 | まちづくり、建築設計、都市デザイン |
| 客員教授** | 五條堀 孝 | 遺伝学、分子生物学 |
| 教 授 | ■ 小林 光 | 環境政策論、エコまちづくり、環境経済論 |
| 教 授 | ■ 小林 博人 | 建築・都市設計 |
| 教 授* | 坂井 直樹 | デザイン、コンセプトワーク、マーケティング、ブランディング |
| 特別招聘教授** | 妹島 和世 | 建築設計 |
| 教 授 | ■ 曾根 泰教 | 政治学(現代政治理論)、政策分析論、日本政治論 |
| 教 授 | ■ 土屋 大洋 | 国際関係論、情報社会学、公共政策論 |
| 特別招聘教授** | 夏野 剛 | IT 経営戦略 |
| 教 授* | ■ Foster, Jim | アメリカ外交史、米国政治経済政策、アジアの安全保障と経済政策、欧州連合(EU) 統合史と政策、国際貿易政策と課題、インターネットエコノミーと技術政策 |
| 客員教授** | 宮田 満 | バイオテクノロジー |
| 教 授 | ■ 村林 裕 | スポーツビジネス |
| 准 教 授 | ■ 森川 富昭 | 医療情報学、医療経営学 |
| 教 授 | ■ 山中 俊治 | プロダクトデザイン、マンマシンインターフェース、ロボティクス |
| 教 授 | ■ 渡辺 光博 | ヘルスサイエンス、アンチエイジング、代謝疾患、栄養医学、予防医学 |

総合政策学部

| 職位 | 氏名 | 専門分野 |
|--------|-----------------|----------------------------------------------------|
| 教 授 | ■ 会田 一雄 | 会計学(非営利・公会計論、業績評価) |
| 教 授 | ■ 青木 節子 | 国際法、宇宙法 |
| 教 授 | ■ 阿川 尚之 | 米国憲法史、日米関係論 |
| 教 授 | ■ 浅野 史郎 | 地方自治 |
| 准 教 授* | 井口 知栄 | グローバルイノベーションマネジメント、国際経営戦略論、東南アジア研究(タイ、フィリピン、マレーシア) |
| 准 教 授 | ■ 飯盛 義徳 | 地域イノベーション、地域情報化、経営学、ファミリービジネス |
| 教 授 | ■ 井下 理 | 社会心理学、異文化間教育、高等教育、社会調査法、ソーシャル・マーケティング |
| 准 教 授 | ■ 井庭 崇 | パターン・ランゲージ、創造性、システム理論 |
| 教 授 | ■ 印南 一路 | 意思決定論・交渉論、医療福祉政策 |
| 教 授 | ■ 上山 信一 | 企業の経営戦略、行政改革、地域再生、ミュージアムマネジメント |
| 教 授* | ■ 梅垣 理郎 | 比較開発論、国際関係論、人間の安全保障論 |
| 教 授 | ■ 大江 守之 | 人口・家族変動論、都市・住宅政策論 |
| 教 授 | ■ 奥田 敦 | イスラム法およびその関連諸領域、アラビヤ語 |
| 教 授 | ■ 小熊 英二 | 歴史社会学 |
| 教 授 | ■ 小澤 太郎 | 公共選挙論、応用ゲーム理論、戦略情報論 |
| 訪問講師* | Kassabji, Fajia | アラビヤ語、アラビヤ文化、イスラーム研究 |
| 教 授 | ■ 片岡 正昭 | 地方政府論、データサイエンス |
| 准 教 授 | ■ 加茂 具樹 | 中国地域研究、比較政治研究、東アジア国際関係 |
| 教 授 | ■ 河添 健 | Lie 群上の調和解析、フーリエ解析、ウェーブレット解析 |
| 教 授 | ■ 草野 厚 | 政策決定論、経済摩擦の政治学的分析、日本の外交、アメリカ政治(議会、行政府) |

| 職位 | 氏名 | 専門分野 |
|----------|--------------------|----------------------------------------------------------------------------------|
| 教 授 | ■ 國枝 孝弘 | フランス文学、フランス語教育 |
| 教 授 | ■ 桑原 武夫 | マーケティング、消費者研究 |
| 教 授 | ■ 古石 篤子 | フランス語教育、言語教育政策、フランス語学、第二言語習得 |
| 教 授 | ■ 國領 二郎 | 経営情報システム |
| 教 授 | ■ 小暮 厚之 | 統計学、計量ファイナンス、リスク理論 |
| 教 授 | ■ 後藤 純一 | 国際経済学、労働経済学、経済政策 |
| 教 授* | ■ 小林 良樹 | 社会安全政策(治安)、安全保障(インテリジェンス)、国際関係学(日中関係) |
| 教 授 | ■ 駒井 正晶 | 住宅政策、不動産市場分析 |
| 専任講師* | 島田 美和 | 中国地域研究、中国近現代政治史、内モンゴル近現代史 |
| 准 教 授 | ■ 清水 唯一朗 | 日本政治外交史、統治機構論、政官関係論、オーラル・ヒストリー |
| 准 教 授* | 白井 宏美 | ドイツ語学、語用論、談話分析 |
| 准 教 授 | ■ 神保 謙 | 国際安全保障論、アジア太平洋の安全保障、東アジア地域主義、日本の安全保障政策 |
| 准 教 授 | ■ 新保 史生 | 憲法、情報法 |
| 教 授 | ■ 竹中 平蔵 | 経済政策 |
| 教 授 | ■ 田島 英一 | 中国地域研究、中国市民社会論、公共宗教論、中国キリスト教系団体研究 |
| 特別招聘教授** | 玉井 克哉 | 知的財産法 |
| 准 教 授 | ■ 玉村 雅敏 | 公共経営、ソーシャルマーケティング、評価システム設計、経営情報システム、公共選択論 |
| 訪問講師* | 寺田 裕子 | 言語学、スペイン語・日本語学、第二言語習得 |
| 専任講師* | 東海林 祐子 | ライフスキルプログラム、コーチング |
| 専任講師* | 永野 智久 | スポーツ心理学、フットボールサイエンス |
| 准 教 授* | 西山 朗 | 開発経済学、経済成長論、健康と不健康の経済分析 |
| 教 授 | ■ 野村 亨 | 東南アジア史(特に華僑史、マレーシア史)、鉄道史 |
| 訪問講師* | 朴 亨振 | 韓国語学、韓国語文法論 |
| 教 授 | ■ 花田 光世 | 人的資源開発論・国際経営論 |
| 教 授 | ■ 氷上 正 | 中国文学 |
| 教 授 | ■ 平高 史也 | ドイツ語教育、日本語教育、社会言語学 |
| 准 教 授 | ■ 廣瀬 陽子 | 国際政治、紛争・平和研究、旧ソ連地域研究 |
| 訪問講師* | 黃 琬婷 | 中国語学、中日対照研究 |
| 特別招聘教授** | 船橋 洋一 | 外交政策と安全保障政策、日米関係、日中関係、北朝鮮核問題、歴史問題 |
| 准 教 授 | ■ 古谷 知之 | 統計学、観光政策、交通政策 |
| 訪問講師* | Petrus Ari Santoso | Teaching Indonesian as a Foreign Language, TEFL, and Intercultural Communication |
| 教 授 | ■ 堀 茂樹 | 西洋思想史、フランス文学、現代フランス研究 |
| 特別招聘教授** | 松家 仁之 | クリエイティブ・ライティング、エディトリアル・パブリシティ研究 |
| 准 教 授* | 松原 弘典 | 建築設計、デザイン理論 |
| 准 教 授 | ■ 森 さち子 | 臨床心理学、精神分析学 |
| 客員教授** | 谷内 正太郎 | 国際法、国際政治、外交戦略 |
| 教 授 | ■ 柳町 功 | 現代韓国論、東アジア経営史・財閥史(韓国・日本) |
| 訪問講師* | Raindl, Marco | 現代ドイツ文学、外国語としてのドイツ語教育学(DaF) |
| 専任講師* | 李 洪千 | 政治コミュニケーション・PR、マスコミュニケーション、ジャーナリズム |
| 訪問講師* | Leroy, Patrice | フランス語 |
| 教 授 | ■ 渡邊 頼純 | 国際政治経済論、GATT・WTO 法、欧州統合論 |
| 准 教 授 | ■ 藁谷 郁美 | ドイツ語、ドイツ文学、ドイツ語教授法 |

※下表の氏名に「■」印のある教員が政策・メディア研究科委員です。
政策・メディア研究科の運営は、主に研究科委員により行われています。

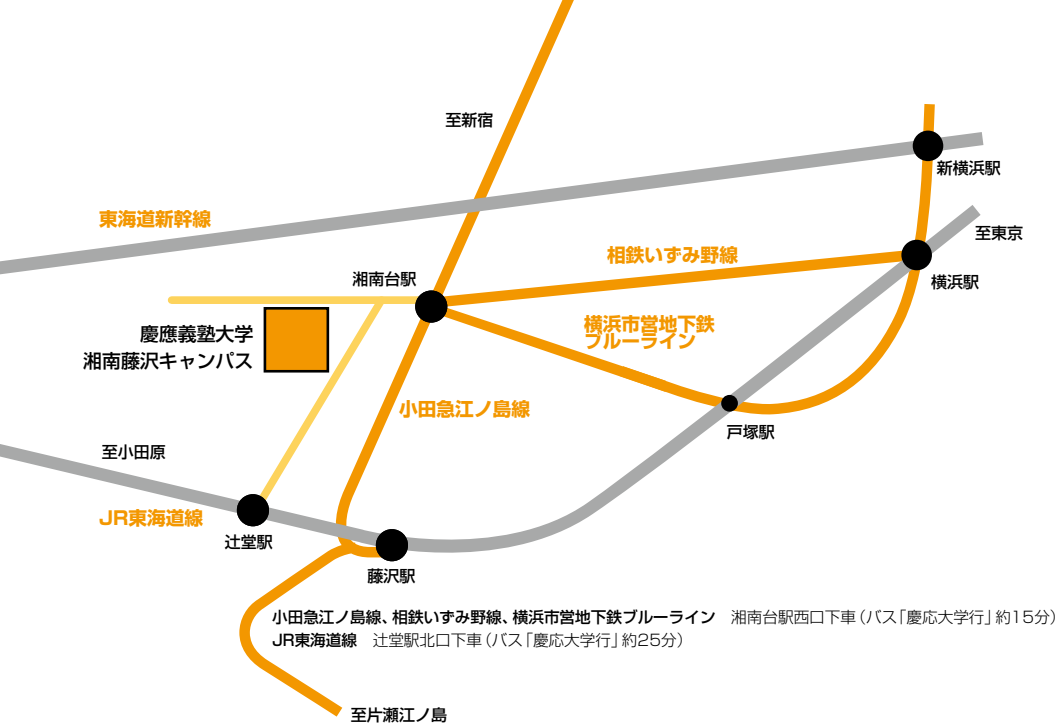
環境情報学部

| 職位 | 氏名 | 専門分野 |
|-----------|-----------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 准教授 | ■ 秋山 美紀 | メディア・コミュニケーション、ヘルス・コミュニケーション |
| 教授 | ■ 石崎 俊 | 自然言語処理論、認知科学、脳科学、音声情報論、画像情報論、シンボルとメディアの認知・システムプロジェクト(リーダー)、認知・意味編成モデルと身体スキルプログラム |
| 教授 | ■ 板谷 光泰 | ゲームデザイン学、ゲノム工学、分子生物学、分子遺伝学、合成生物学 |
| 教授 | ■ 一ノ瀬 友博 | 景観生態学、景観計画学、造園学 |
| 教授 | ■ 今井 むつみ | 認知科学(特に認知言語発達科学、言語心理学) |
| 教授 | ■ 岩竹 徹 | 作曲、コンピュータ・ミュージック |
| 客員教授** | ■ 呉 建平 | Computer Network |
| 准教授 | ■ 植原 啓介 | コンピュータネットワーク |
| 特別招聘准教授** | ■ 大喜多 優 | Technology in Education, and the Emergence of a Global Curriculum |
| 教授 | ■ 小川 克彦 | ヒューマンインタフェース、コミュニケーションサービス、ネット社会論 |
| 訪問講師* | ■ O'Donnell, David P. | Teaching English to Speakers of Other Languages (TESOL), with special emphasis on Computer Assisted Language Learning (CALL) |
| 准教授* | ■ 寛 康明 | 実世界指向インタラクティブメディア、複合現実感、エンタテインメントコンピューティング、インタラクティブアート |
| 客員教授** | ■ Gasser, Urs | Information Law and Policy, Internet Law, Youth and Media, Interoperability, Privacy, Security |
| 准教授 | ■ 加藤 貴昭 | 人間工学、スポーツ心理学、運動学習と制御 |
| 教授 | ■ 加藤 文俊 | コミュニケーション論、メディア論、定性的調査法 |
| 教授 | ■ 金井 昭夫 | 分子生物学、分子進化学、発生生物学 |
| 特別招聘講師** | ■ 北山 陽一 | 歌唱、歌唱指導、ハーモニー構築、作曲編曲 |
| 教授 | ■ 清木 康 | マルチメディア・データベース、感性データベース、マルチデータベースシステム、意味的連想検索 |
| 准教授 | ■ 楠本 博之 | コンピュータネットワーク |
| 教授* | ■ 熊坂 賢次 | ライフスケープ論、ネットワークコミュニケーション論 |
| 専任講師* | ■ 倉林 修一 | 動画・音楽データベース、アクティブ・マルチデータベース |
| 教授 | ■ 巖 網林 | 地理情報科学、都市・地域環境、持続可能科学 |
| 教授 | ■ 佐々木 三男 | 体育方法学、体育心理学、バスケットボールコーチング |
| 客員教授** | ■ 佐藤 雅彦 | 教育方法、表現方法 |
| 訪問講師* | ■ 佐藤 芳明 | 認知言語学、語彙文法 |
| 専任講師* | ■ 佐野 ひとみ | システム生物学 |
| 教授 | ■ 清水 浩 | 環境工学、電気自動車 |
| 教授 | ■ 霜崎 貴 | 対照言語学、認知言語学、翻訳論、英語学 |
| 准教授 | ■ 神成 淳司 | ヘルスサイエンス、アグリサイエンス、情報政策 |
| 教授 | ■ 諏訪 正樹 | 認知科学、人工知能、デザイン(創造)科学 |
| 教授 | ■ 曾我 朋義 | メタボロミクス、分析化学 |
| 准教授 | ■ 高汐 一紀 | 分散システム、実時間システム、モバイルコンピューティング、ユビキタスコンピューティング |
| 教授* | ■ 武田 圭史 | 情報セキュリティ(侵入検知、セキュリティアーキテクチャ、ソフトウェアセキュリティ等) |
| 教授 | ■ 武藤 佳恭 | ニューラルコンピューティング、インターネット・ガジェット、セキュリティ |
| 教授 | ■ 田中 茂範 | 認知言語学、意味づけ論 |
| 准教授 | ■ 田中 浩也 | パーソナル/ソーシャル・ファブリケーション |
| 専任講師* | ■ 丹治 三則 | 環境工学 |
| 特別招聘教授** | ■ 長 健二郎 | インターネットインテリジェンス |
| 客員教授** | ■ 千代倉 弘明 | Computer Aided Design, コンピュータグラフィックス、医学におけるCGの応用 |
| 教授 | ■ Thiesmeyer, Lynn | アジア農村開発、開発論(東南アジア)、ジェンダー、社会理論 |
| 教授 | ■ 徳田 英幸 | 計算機科学、分散システム、オペレーティングシステム、ユビキタスコンピューティング、クラウドコンピューティング |
| 教授 | ■ 富田 勝 | 先端生命科学、システム生物学、バイオインフォマティクス、バイオテクノロジー、生命情報科学、遺伝子情報処理 |
| 准教授 | ■ 内藤 泰宏 | システム生物学 |
| 専任講師* | ■ 中澤 仁 | 分散システム、ミドルウェア、ユビキタスコンピューティング、コンピュータネットワーク |

| 職位 | 氏名 | 専門分野 |
|----------|------------------------|--------------------------------------------------------------------|
| 専任講師 | ■ 中島 直人 | 都市計画、都市デザイン、まちづくり、都市史・都市論 |
| 准教授 | ■ 中西 泰人 | 情報デザイン、経験デザイン、ヒューマンインタフェース、モバイルコンピューティング、アーバンコンピューティング、設計支援、創造活動支援 |
| 教授 | ■ 中浜 優子 | 応用言語学、第二言語習得 |
| 教授 | ■ 中村 修 | 計算機科学、Internet |
| 准教授* | ■ 行木 美弥 | 環境政策、環境工学 |
| 教授 | ■ 西岡 啓二 | 微分代数 |
| 教授 | ■ 萩野 達也 | ソフトウェア科学(プログラミング言語理論、オペレーティングシステム、分散システム、Web技術) |
| 准教授 | ■ 長谷部 葉子 | 英語教材、教授法、遠隔教育、カリキュラムデザイン、異言語・異文化間コミュニケーション |
| 教授 | ■ 服部 隆志 | 計算機科学 |
| 訪問講師* | ■ Batty, Aaron Olaf | TEFL/ESL, Language Assessment |
| 教授 | ■ 濱田 庸子 | 精神医学、精神分析学、乳幼児精神医学、学校精神保健 |
| 准教授 | ■ Van Meter, Rodney D. | ムーアの法則後のコンピュータ・アーキテクチャ、量子計算、ディストリビュテッド・マス・ストレージ・システム |
| 教授 | ■ 福田 和也 | 文芸批評、文明論、社会批評、フランス文学 |
| 准教授* | ■ 藤田 修平 | 映像制作 |
| 特別招聘教授** | ■ 藤原 洋 | デジタル信号処理、通信ネットワークアーキテクチャ |
| 教授 | ■ Freedman, David J. | Poetry/Literary Theory:Children's Literature, Queer Studies |
| 教授 | ■ 増井 俊之 | ユーザインタフェース、ユビキタスコンピューティング |
| 専任講師* | ■ 松川 昌平 | 建築デザイン、情報デザイン、アルゴリズム・デザイン、設計プロセス論 |
| 専任講師* | ■ 水野 大二郎 | ファッションデザイン、インクルーシブデザイン、デザインリサーチ |
| 准教授* | ■ 三次 仁 | モノのインターネット、無線通信、計算工学 |
| 教授 | ■ 村井 純 | コンピュータコミュニケーション、オペレーティングシステム |
| 教授 | ■ 安村 通晃 | インタラクションデザイン、コンピュータヒューマンインタラクション、コンピュータ科学 |
| 教授 | ■ 山本 純一 | メキシコ研究(政治経済)、連帯経済論 |
| 特別招聘講師** | ■ 吉原 由香里 | 囲碁 |
| 准教授 | ■ 脇田 玲 | スマートマテリアル、3次元CAD/CG、Human Computer Interaction |
| 教授 | ■ 渡辺 利夫 | 心理現象の数理分析、空間の知覚と認知、ライフデザイン |
| 教授 | ■ 渡辺 靖 | 文化人類学、文化政策論、文化外交論、アメリカ研究 |

(2012年4月1日現在)

※2012年度の助教以上(有期教員を含む)、客員教員、特別招聘教員、訪問講師を掲載しています。
*は有期教員で、一定期間の契約となっています。**は非常勤の有期教員となっています。



慶應義塾大学 湘南藤沢キャンパス

〒252-0882 神奈川県藤沢市遠藤5322

<http://www.sfc.keio.ac.jp/>

- ◆入学試験に関するお問合せ
大学院政策・メディア研究科 アドミSSIONS・オフィス TEL.0466-49-3407
- ◆その他のお問合せ
事務室 総務担当 TEL.0466-49-3404